

研究タイトル:

## 水上オートバイを活用した水辺の安全教育



氏名: 幸田三広 / KOTA Mitsuhiro E-mail: kota@oshima-k.ac.jp

職名: 教授 学位: 修士(体育学)

所属学会・協会: 日本体育学会、日本学校保健学会、日本安全教育学会、日本航海学会、日本高専学会

キーワード: 水上オートバイ、PWC レスキュー、人命救助、水辺の安全教育

技術相談  
提供可能技術:

- ・水上オートバイ(PWC)を使った海上救助法
- ・人体モデルを使った心肺蘇生法(AED 含む)
- ・水辺の事故を想定した救助法と着衣泳

### 研究内容: PWC レスキューを用いて水辺の安全教育を構築する

本校は、四方を海に囲まれた瀬戸内海の島にあり、地震・津波による被害を受けた場合にライフラインが寸断され孤立する可能性があります。またこの島は、「東南海・南海地震対策推進地域」に山口県で唯一指定されていることから、地域をあげて津波を想定した避難訓練を行い住民への防災教育に力を入れています。こうした環境の中、2005(H17)年にプロジェクトチームを発足させ、練習船「大島丸」を活用した防災教育プロジェクトがスタートしました。そしてその中の一つに水上オートバイを用いた最新の救助法である「PWC レスキュー」を導入したのです。

PWC レスキューとは、水上オートバイにライフスレッド(巨大なボード)を装着して行うレスキューテクニックです。PWC レスキューの発祥はハワイで、波の高いハワイの海では、人力だけのレスキューでは限界があるため、安全で素早く機動性に優れた水上オートバイを利用したレスキュー法が誕生しました。

この最新のレスキュー法はまだ発展途上で日本の環境に合わせた手法へと徐々に改良されてきています。現在では、海水浴場だけでなく海上保安庁や消防署などでも採用されその有効性が実証されるようになってきました。

本校では、2011(H23)年に日本で唯一の「学生 PWC レスキュー隊」が結成され、10年が経過しました。その間、地元の B&G 海洋センターと連携した活動、消防署水難救助隊との合同訓練や山口県消防学校とのトレーニングを通し、救助のスキルと意識の向上を図っています。現在、この救助法を水辺の安全教育に役立てられるよう、学校教育や防災教育など様々な環境でその有効性を検証する取り組みを実施しています。



### 提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
水上オートバイ (PWC) 3艇	蘇生法教育人体モデル (ヤガミ) 7体
・Kawasaki JET SKI ULTRA260X	・ヤガミ JAMY-IV RECO 全身モデル 3体
・YAMAHA MJ-FX Cruiser SHO	・ヤガミ JAMY-IV DSP 全身モデル 4体
・BRP Sea-Doo GTX	AED トレーナー (ヤガミ) 7台